

新たななる飛躍 洞爺湖町へ 議員一丸となつて！

議長 佐々木 良一

皆様輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

平成十七年度は台風の被害もなく、洞爺村の主産業である農業にとつて、実り多い年でありました。しかし、反面、豆類・野菜類を中心に過去に例を見ない低価格で推移する等、農家経済にとつて誠に厳しい年でありました。各界の力を集結し、この大きな苦難を乗り越えなければと考えている所です。さて今年はいよいよ虻田町との合併を控え、洞爺村として最後の年となりました。

明治二十年、三橋政之団長以下二十二戸七十六名が、一の原・二の原（大原）に開拓の鋤を下ろして以来、血のにじむ苦難の歴史を積み重ね、今日の、豊かな郷土を築き上げられました。また大正九年六月には、虻田村から分村し、洞爺村としての歴史が刻まれてき

ました。

この間、大勢の方々の郷土愛の心と尊い奉仕の精神が、今の洞爺村の礎を作り上げられたことを振り返り、深甚なる敬意を表するものであります。

さて世界先進国の中で、唯一中央集権国家であった日本もついに地方分権型国家へとその方向の舵を切りました。明治以来の行政システムの行きつまりと財政難の中、多くの自治体が町村合併により新たな道をたどり始めました。もとより私達の最も身近な地域社会は、行政機構がどう変化しようとして、豊かな文化、心をもつた地域コミュニティ社会を作り上げていくことが基本と考えます。

合併によつて洞爺地区にも、地域のことを自分達で考へて行く「地域審議会」が設置されます。この地域審議会と、各地の自治会活動こそが洞爺の地域づくりのよりどころになると思います。

今こそ洞爺にとつて「自主自立」の力強い歩みを、私達一人ひとりの意思によつて始める時が来ました。

私ども議会も、このことを充分念頭に置き、合併が失敗に終わることのない様、新しい町洞爺湖町

において頑張る所存であります。

特に、合併による議員の在任特例の意味を深くかみしめ、議員一同一丸となつて洞爺地区の発展の為に新しい町づくりの基礎となるこの一年、全力で立ち向かつて行く所存ですので、皆様方の御叱責御意見を賜りたく存じます。

この洞爺地区が、新しい発展の道を力強く歩むことを初めに、新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶

教育長 桑原 敏

皆様、新年あけましておめでとうございます。

本年は虻田町との町村合併や小学校の統合が三月に実施されるなど村の歴史が始まって以来の大き

な節目の年となりました。

日本の国は、少子高齢化の急速な進行や地方分権社会の実現に向けて、大きな改革の渦中にありますが、二十一世紀の時代に、一人ひとりがどう生きていくのか、どのように自己実現を図っていくのか、かが問われていくことになるのだと思います。

洞爺村は、素晴らしい自然景観に恵まれ、更に文化芸術の香り漂う世界にも稀な地域であります。新年度からは、新たに採択された「まちづくり交付金事業」により、一層湖畔に面した地域一帯の魅力

アップが計画的に推進され、長年の課題も解消される目途がついたことは喜ばしいことです。時代の変遷にもない様々なことが移りますが、時代がどのように変化しても次代を担う子どもたちが心身ともに健やかに育つことを願うのは、全ての大人共通の願いであります。子どもたちが安心、安全に生活できるよう保護者や学校、地域の皆様が一体となった活動が行われていることに心から感謝しているところでありますが、さらにこの運動を充実させていこうとしている取組みに対して、いまだ健全な地域の教育力を感してなりません。

子どもたちも、小学校統合により同年齢の仲間が増え、お互いに良い影響を与えあうことによつて、生きるために本当に必要な力を身に付けることを願うものですが、高齢者を含めた大人たちも、長寿社会にあつて生きがいを感じながら楽しく人生を過ごすことを願うものです。お互いに持つていらっしゃる特技や技能を、必要とする人々、子どもたちに教えてあげることなどはどうでしょうか。地域で生きていく皆さんが、ある時は先生になり、ある時は生徒になつて、常に必要なことを学び続ける社会、住民同士で教えあう社会、すでに、洞爺高校での民間講師招聘事業や、各学校での総合的な学習の時間や体験学習、社会教育事業での地域女性学級などで実践されていきますが、もっと気楽に、もっと皆が、教えあひ学びあうことができれば素晴らしいと思います。また、新しい町づくりは今年からスタートします。大人も子どもも積極的に何らかの形で参加し関わっていきたいものです。私達の新しい町を、私達自身が誇りを持って、語れるようにしましょう。皆様にとつて今年一年、充実した良い年になることを祈念し新年の挨拶と致します。

